

Feeling excited

Dance with Heart  
The Kikunokai Troupe  
We are burning with enthusiasm  
in creating national art for  
the new era.  
Chairperson Michiyo Hata

# 日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会  
〒161-0031  
東京都新宿区西落合 2-21-23  
03-5983-6001 (代表)  
菊の会京都八瀬研修所  
〒601-1254  
京都市左京区八瀬野瀬町 10  
075-712-8701 (代表)  
<http://www.kikunokai.co.jp>

Dancing from the heart



## ご挨拶

風薫る候、御機嫌麗しくお過ごししの事と存じます。皆様のお蔭をもちまして菊の会創立三十五周年を迎える事が出来ました。これも偏に、この長きにわたり皆様から頂きました、暖かく力強い御尽力のお蔭と改めて茲に衷心より御礼を申し上げます。誠に有難うございます。これからも一層努力を重ね菊の会の活動を展開して参ります。今後共変わらぬ御指導、御鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

尾上菊乃里事  
畑 道代

## 菊の会に寄す

国際連合大学  
上級学術顧問

小堀 巖  
Iwao Kobori



アルジェリアのセラール女史の写真展を、中近東文化センターで開催することになり、ケトランジ大使とのミーティングが持たれたのは昨年のことであった。大使秘書の机の上に沢山の菊の会公演の招待状を見つけたのは、自身も日本舞踊を習得していた家内であった。もしご興味がおありでしたら、と大使から招待状を頂いたのは数日後のことであった。マダレブ三國にて公演される出し物を日本でもお披露出するための会であった。私は沙漠の研究者であり、日本舞踊の世界には全くの門外漢であったが、牛に引かれて善光寺参りの如く家内に続いたのであった。演題は古典の中からのものがほと

んどであったと思うが、私がイメージしていたようなものではなく、テンポがスピーディーであり、舞台全体が終始躍動しており、一瞬も目を離すことができないほどに引きつけられ、その展開ごとの美しさに、只、只、目を奪われてしまった。畑先生の振付による新しい舞踊であるということがの説明は後からうかがった。  
私がサハラ沙漠を最初に訪れたのは一九六一年のことであった。その後度々行くことになるが、一昨年、昨年と二年続けてアウレフを訪れた際、そこで遊牧民族の踊りを見る事ができた。トアレグの激しい中にも哀愁をおびた音楽に合わせて、黒い装束で踊るその踊りは単に娯楽のためではなく、精神の浄化と折り目が込められているのではないかと思われた。家内もその輪の中に引き入れられたが、鳥に化身して踊るそれは、トルコのメブラーナ(スーフィー)と共通するものを感じられたと云っていた。メブラーナもイムザッド(一弦琴)に合わせて踊るサハラ南部の踊りは自我の陶醉にあり、日本舞踊は鑑賞者を酔わせるという違いがあるのだろうか。次回畑先生に教えを乞う機会があることを楽しみにしている。

# 感動!!

特定非営利活動法人 東京腎臓病協議会

会長 榊原 靖夫

Yasuo Sakakibara



## 私

と菊の会の出会い  
は、二〇〇五年七月、アトリエ公演で私の予想を遥かに超えて、衝撃的で鮮烈な出来事として訪れました。

人工透析を生涯続ける事を義務付けられた生活を強いられ、またその仲間たちの集まりである患者会、NPO法人東腎協の会長職を任せられ重責を負いながら、閉塞感に満ちた日々を送っていた私に声をかけ「日本のおどり」アトリエ公演に導いてくれたのが、戸倉副会長でした。

日本舞踊観賞が初めてだった訳ではありません。開演して半ば過ぎたころからでしょうか？なんだか解らない異体の知れぬ感情が胸を締め付けはじめ、そしていつの間にか、目蓋が熱くなり気が付いたら熱い物が頬を伝わっていました。



上段 鹿児島六調  
下段 川の流れるように



こんな感動は何年ぶりだろうか！誠に新鮮で且つもう忘れていた私の中の様々な想いを蘇らせてくれました。  
将来の開けない宿命の病氣と闘い、ややもすれば閉塞感だけに囚われがちになっていた

私をこんなにも感動させてくれた源は何だろうか？その答えは公演後、畑代表にお会いし、その殆どが解きました。  
自然体で、淡々と、飾りなく、微笑を絶やさず語られるいっぱいの優しさの中に、踊りへの過ぎる程の厳しさ、細心の気配り、美への探究心に感銘を受けましたが、私達には表されぬ秘められた踊りへの溢れんばかりの情熱と誇りを感じ取ることができました。  
その先生の生き様と、踊りへの姿勢をしつかり学び、志を同じくするお弟子さん達が心と魂を込めて、観客に訴えかける踊りが私を感動させ頼に熱いものを伝わせたのだと信じます。  
どうぞ未永く、私を感動の快感に浸らせ続けてください。  
「菊の会」創立三十五周年、誠にめでとうございます。

## 舞踊家の条件

舞踊芸術

井上 道代



先ず観客のハートを射止めること。むづかしい事は書けませんが、私の持論ですが、あぁー生き過ぎて良かった・・・。  
長い人生に、音楽、美術、舞踊、演劇など忘れられない素晴らしいめぐり逢い、要するにハートを射止められた事ですね。  
人間性豊かな師に恵まれ、厳しい修行と努力、勿論大切なことです。それに加えて舞台効果、演出上の工夫、生やさしいもの

ではありません。技術は勿論大事ですが、演者の感性、観る人の心に何か訴えるもの、それが最高。  
若い方は、若さを舞台にぶつけ、老練な方は長年の修行の跡を見せ、それぞれに活力と己の人生を静かにふり返られるゆとりを観客に与えられることは舞踊家にとって大事な条件の一つと思います。  
古典をふまえて、何か新しい風を送る・・・  
こんな工夫も大事です。

# 「菊の会」と太鼓」 う伝統文化の心



左とリップス氏(右)



使も和太鼓に挑戦

踊の歴史が紹介されました。続いて「寿菊三番叟」が紹介され、色鮮やかな衣裳に身を包んだ三人の女性たちが、優雅でそして上品に舞い、その姿は、大漁や豊作そして平和を願う庶民達をまるで励ましているかのような踊りでした。巧みにデザインされた着物やその美しい振付は、常に私達の心を捉えて離さず、力漲る平和に満ちた素晴らしき世界へと誘ってくれるのです。また、長唄というもの

た。その後、観客の中から3人の希望者が舞台に上げてもらい、お手本にあわせて実際に叩いてみるコーナーが始まりました。必死になって演者の真似をして叩こうとする挑戦者たちの姿が実に微笑ましく、特に後ろ向きで叩く様子はとても印象的でした。



会場が一体となり歓喜の渦に包まれた

# 「日本のおどい」 国を越えて響き合

駐日イタリア大使館  
海軍准将 国防武官  
ジョゼッペ ピーロ  
Giuseppe Piro



着物姿も良く似合ったベルギーのブルマン



チェコ共和国 イヴァン・ヴルチェック代理

**去**る三月二十四日、舞踊集団菊の会による「日本の伝統舞踊と太鼓・着物(着付け)」と題された催しが、外務省外郭団体「国際交流サービス協会」(IHCSA)の主催で開かれました。

菊の会につきましては、私と妻は幸いにも以前からよく存じ上げており、何度か菊の会の公演を拝見した際にも代表

午後二時頃には、さらにリラックとした雰囲気包まれた会場に他の外交官やその家族達四十名程が揃い、IHCSA

の畑道代先生にお会いする機会がございました。そこで私達夫婦は、畑先生の行き届いた真心とおもてなしに接し、瞬く間に貴会に魅了されてしまったのです。その意味において、今回の催しへの参加は、私達にとって、たつての希望でもあり、またその日が来るのをとても待ち遠しく感じておりました。またそんな私達の様子に興味を示していた大使館の女性職員二人も誘って行くことにしました。

その日、私達は菊の会に到着するやいなや、玄関では美しい着物の女性たちに迎え入れられ、そしてそのまま日本建築の代名詞でもある静かである菊の会の建物の奥へと案内されていきました。そこは古くから慣れ親しんだ部屋のような、それでいてどこか心を和ませてくれる空気に満ち、都会の喧騒からはまったくかけ離れた穏やかな空間でした。

進行役の中條幸子さんによる英語のアナウンスでスタートしスライドとナレーションを駆使した企画で日本の伝統舞



左上 パナマ共和国大使館理事官と芹澤氏  
左下 ピーロ氏夫人(左端)とイタリア大使館の皆様



右上 ピーロ氏と畑代表  
右下 お茶席で和むイタリア、ベルギー、ポーランドの方々

休憩の後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。

休むの後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。

休むの後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。

休むの後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。

休むの後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。

小島事務局長(理事)の挨拶、畑道代先生の挨拶に続いて笑顔の着物女性が紹介されました。舞台脇では畑先生がそつと見守っておられる中で司会

の畑道代先生にお会いする機会がございました。そこで私達夫婦は、畑先生の行き届いた真心とおもてなしに接し、瞬く間に貴会に魅了されてしまったのです。その意味において、今回の催しへの参加は、私達にとって、たつての希望でもあり、またその日が来るのをとても待ち遠しく感じておりました。またそんな私達の様子に興味を示していた大使館の女性職員二人も誘って行くことにしました。

休むの後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。

休むの後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。

休むの後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。

休むの後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。



休むの後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。

休むの後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。

休むの後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。

休むの後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。

休むの後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。

休むの後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。

休むの後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。

休むの後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。

休むの後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。

休むの後の第二部は、初めに和太鼓を鑑賞し、響きわたる力強い音の中にも強弱や豊かな多様性が表現されていました。



創立35周年を迎えた新春公演を1月25日越谷市、28日柏市、2月3日川越市で開催した。ここ数年、各地での新春公演が恒例となっているが、川越での自主公演は5年ぶりということもあって、多くのお客様から好評の声を頂いた。演目は第1部に長唄「吾妻八景」、長唄「供奴」、狂言舞踊「身替座禅」と新春に相応しい華やかな演目で、続く第2部では舞踊選集「故郷の心を舞う」と題し、屋久島哀歌・獅子の時代・維新の人・川の流れるように等、現代感覚を盛り込みつつ、心の故郷となっている数々の曲のつてエネルギー溢る舞台を展開した。

## 「早春の舞」所沢公演を開催



大和楽「藤むらさき」

爽やかな3月18日、所沢ミュージアムホールにおいて、菊の会公演を開催した。第1部に大和楽「藤むらさき」、長唄「流れ」、狂言舞踊「花冠者」と、第2部には「燃えよ日本列島」。公演メンバーがそれぞれに趣の異なる演目を熱演した。満員の客席には遠方からのお客様も多く大きな声援が送られた。

## 全国舞踊コンクールで2位入賞



清元「玉 兔」

東京新聞社主催第64回全国舞踊コンクール本選が4月15日に開催され、今年には公演メンバーの山沢弘子さんが出場。これまでに、第58回のコンクールに邦舞第二部(子供の部)として出場し大和楽「たけくらべ」で1位を獲得、そして今回邦舞第一部(大人の部)に出場し、清元「玉兔」で第2位に入賞しました。同コンクールでは過去に、菊の会のメンバーが平成9年から現在まで35名の上位入賞者を輩出、畑代表の日頃の地道な指導の成果が現れていた。

## INFORMATION 5月~8月 公演予定

### 若者達の舞踏会

#### 【第9回さつき会】

5月13日(日) サンパール荒川 14時開演  
【全席自由】入場料4000円(当日4500円)

#### 【日本のおどり~薫風に舞う~】 京都八瀬研修所

5月18日(金) 12時・15時・18時  
19日(土) 12時・15時・18時  
20日(日) 12時・15時

【全席自由】入場料4500円(当日5000円)

#### 【日本のおどりアトリエ公演】 菊の会スタジオ

6月15日(金) 12時・15時・18時  
16日(土) 12時・15時・18時  
17日(日) 12時・15時

【全席自由】入場料4200円(当日4500円)

#### 【第33回教室発表会】 練馬区立練馬文化センター

8月13日(月) 教室発表会・前夜祭  
14日(火) 教室発表会

#### 【第23回南越谷阿波おどり】

8月25日(土) 招待連として参加致します  
26日(日)

※上記の日程は予定ですのでご確認の上御来場下さい。

#### ■お問い合わせ

菊の会事務局 03(5983)6001  
京都八瀬研修所 075(712)8701

## Coffee Break コーヒーブレイク

## 10年遅れのスタート

昔は日本舞踊を六歳の六月六日から稽古をはじめると良いとされてきましたので、十六歳からはじめた私は大変遅い出発点といえると思います。公演メンバーのなかにも三歳から始めた人もあり、その差を感じることは間々ありますが、畑代表からも公私にわたり励ましをいただきながら日々薫陶を受けています。長唄や一中節の稽古もさせて頂き、沢山のことを教えていただいています。

菊の会の舞台で大勢の人の前に立たせていただくようになって今年で十年目になりました。人前に出ることが苦手で、それは全く思いも拠らないことでした。弟とは双子で今でも間違えられることがありますが、自分たちでも同時に同じことを云ったり、違ったりしているのも同じ服を選んでいたり、不思議に思うことがありますが、その反面、右脳派、左脳派といわれるように、思わぬ所が全く違う部分を持つていて、弟は饒舌では有りませんが人と話すことは苦にならないタイプで、陽気な性格。私は全く苦手でどちらかといえば陰の性格かもしれません。菊の会へは姉が始めに入会し、父と母が埼玉の舞踊教室でお稽古を始め、やがて弟が菊の会の舞台上に魅せられ入会しました。

ひとり取り残されたような私は、人前で何かをするという一番苦手なところへ気が付くと導かれるようになってい



公演メンバー  
中村 輝幸

1997年より畑代表に師事。  
1999年に舞踊劇『追分の女』で初舞台。  
2005年東京新聞社主催全国舞踊コンクール、邦舞第一部「寿式三番叟」で第2位に入賞。  
現在、若手公演メンバーとして活躍。

現在は未熟な私ですが公演メンバーとして、国内公演はもとより、これまでに九カ国の海外公演にも弟と共に出演させて頂いてきました。また両親も趣味としてこの踊りを通して心と身体の健康に前向きで、また家族全員が共通の話題で話し合い、理解しあえる大変に恵まれた環境の中で続けられるということは本当に有難く、心から感謝しています。

菊の会と出会ったことによって最近私の性格も大きく変わってきたと家族や廻りの人にも云われ、私もその事に気づく様になりました。これからも日々の地道な稽古を怠らず、明らかに精進してゆきたいと願っています。